

# 令和2年度上半期 地域経済景況調査報告書

大東商工会議所  
大 東 市

- 目的  
地域経済の景況を把握するため、市内事業所を対象に景況調査を半期毎に年2回実施する。  
調査概要は以下の通り。
- 方法  
往復はがきによるアンケート方式、巡回等でも依頼・回収
- 調査期間  
令和2年4月～令和2年9月
- 対象  
市内の1518事業所
- 回答状況  
回答事業所 378社（令和2年10月28日現在）

(業種)			
非製造業	製造業	137社	36.2%
	建設業	56社	14.8%
	卸売業	30社	7.9%
	小売業	48社	12.7%
	飲食店	17社	4.5%
	サービス業	90社	23.8%
	非製造業計	241社	63.8%
合計		378社	100.0%

(従業員規模)		
0～5人	216社	57.1%
6～20人	98社	25.9%
21～50人	32社	8.5%
51～100人	18社	4.8%
101人以上	14社	3.7%
合計	378社	100.0%

※四捨五入により合計が100.0%にならない場合がある

- 調査データ  
調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とは、Diffusion Index(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」・「好転」した等とする企業割合から「減少」・「悪化」した等とする企業割合を差し引いた数値である。即ち、プラスは上昇・増加・黒字基調等の企業割合が上回り、マイナスは下降・減少・赤字基調等の企業割合が上回ったことを示す。

## 【全国の景況】

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。

- ・個人消費は、持ち直している。 ・設備投資は、弱い動きとなっている。
- ・輸出は、持ち直している。 ・生産は、持ち直しの動きがみられる。
- ・企業収益は、感染症の影響により、大幅な減少が続いている。企業の業況判断は、厳しさは残るものの、改善の動きがみられる。
- ・雇用情勢は、感染症の影響により弱い動きとなっているなかで雇用者数等の動きに底堅さもみられる。
- ・消費者物価は、横ばいとなっている。

先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

\* 内閣府発表 月例経済報告(令和2年10月)による

## 【大東市の概要】

感染症の影響による緊急事態宣言の発出・解除を経て、外出の自粛と経済活動の再開が図られた結果、「資金繰り」など総じて大阪府の指標より厳しい指標が数多くみられた。また、コロナ禍における支援金等の活用状況は、「活用した」が63%、「活用予定」が9%と、7割をこえる回答者が給付金や融資等の施策を活用し、この未曾有の厳しい経営環境を乗り切ろうと尽力されている状況がみられた。本調査は年2回の調査で明瞭な景気の底はみえないが、国や府等の調査では令和2年4月～6月の四半期を底として持ち直しの兆しもみられるので、今後当市景況感も改善するか注視する必要がある。

	出荷・売上高	製・商品単価	原材料価格	営業利益	採算状況	資金繰り	雇用状況	設備投資	来期の業況見通し
製造業									
非製造業									

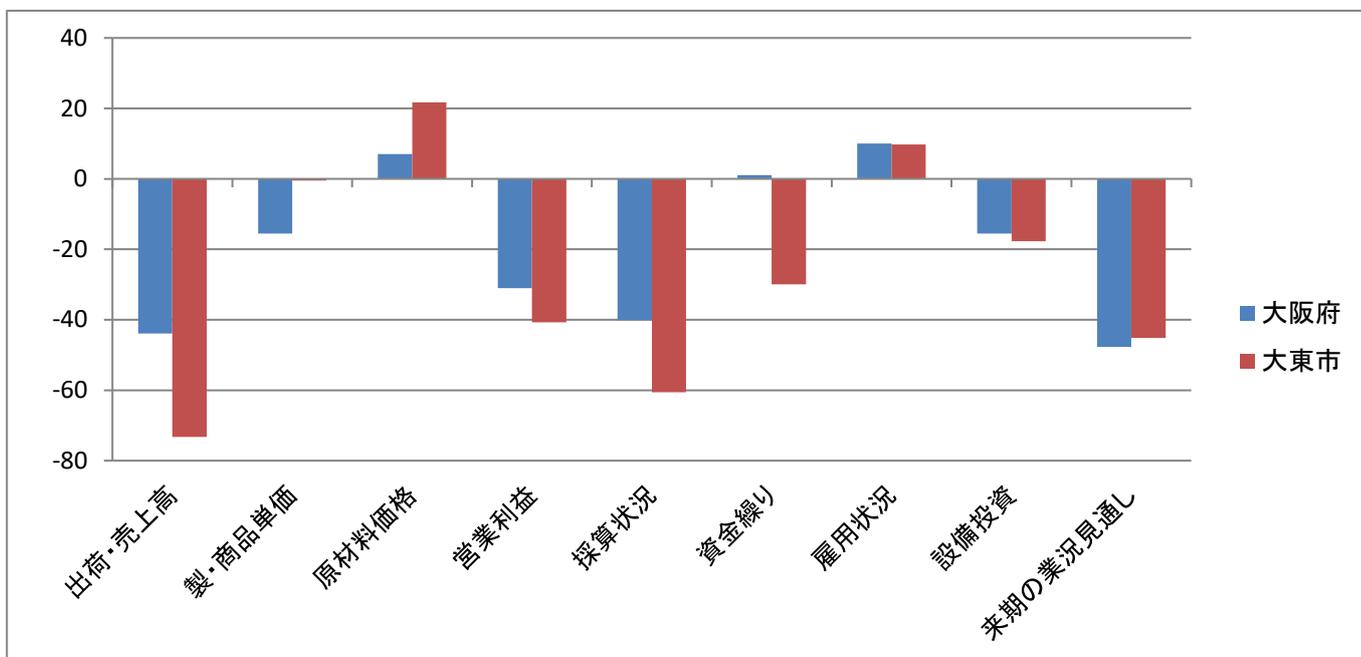
DI値: … 5以上 … -5～5未満 … -15～-5未満 … -25～-15未満 … -25未満

\* 原材料価格及び雇用状況に関しては、数値を反転して評価する。

## 【大東市内企業の景況及び大阪府との比較】

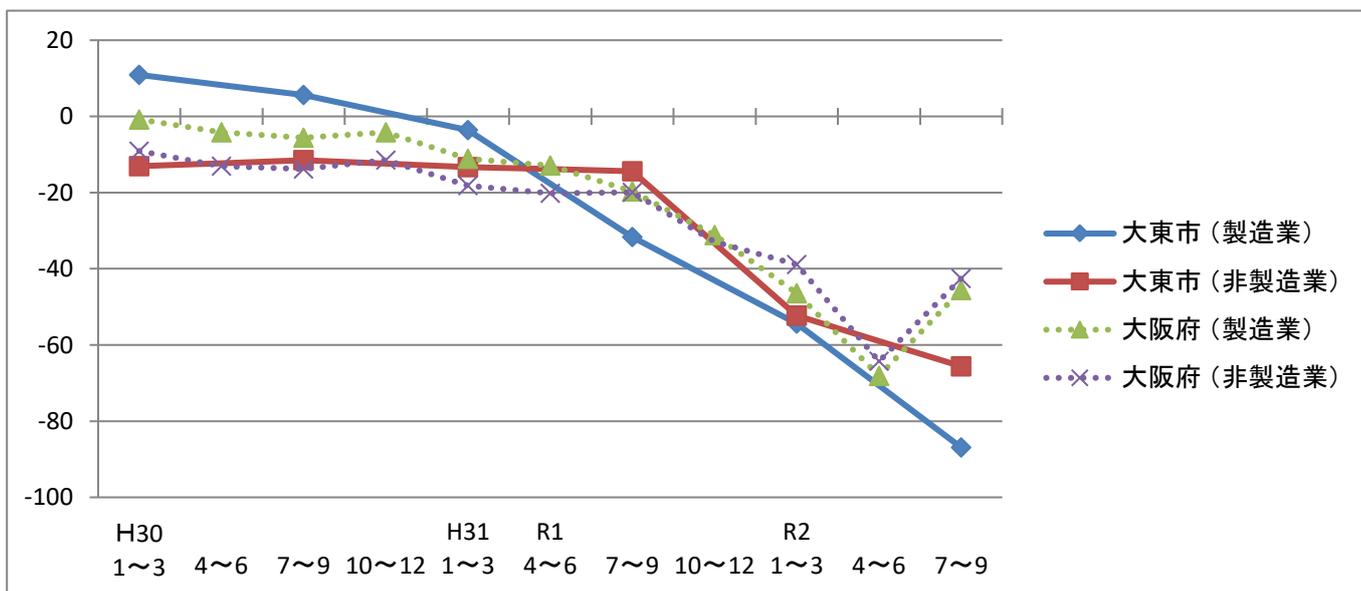
### DIのまとめ（大阪府との比較）

大阪府の指標との比較では、大東市内企業は今回も「製・商品単価」「雇用状況」「来期見通し」で上回ったものの、他の指標は大阪府の指標よりもマイナスであった。中でも「資金繰り」「原材料価格」「営業利益」「採算状況」の指標は大阪府の指標を大きく下回ったが、「来期見通し」から持ち直しの動きを期待したい。



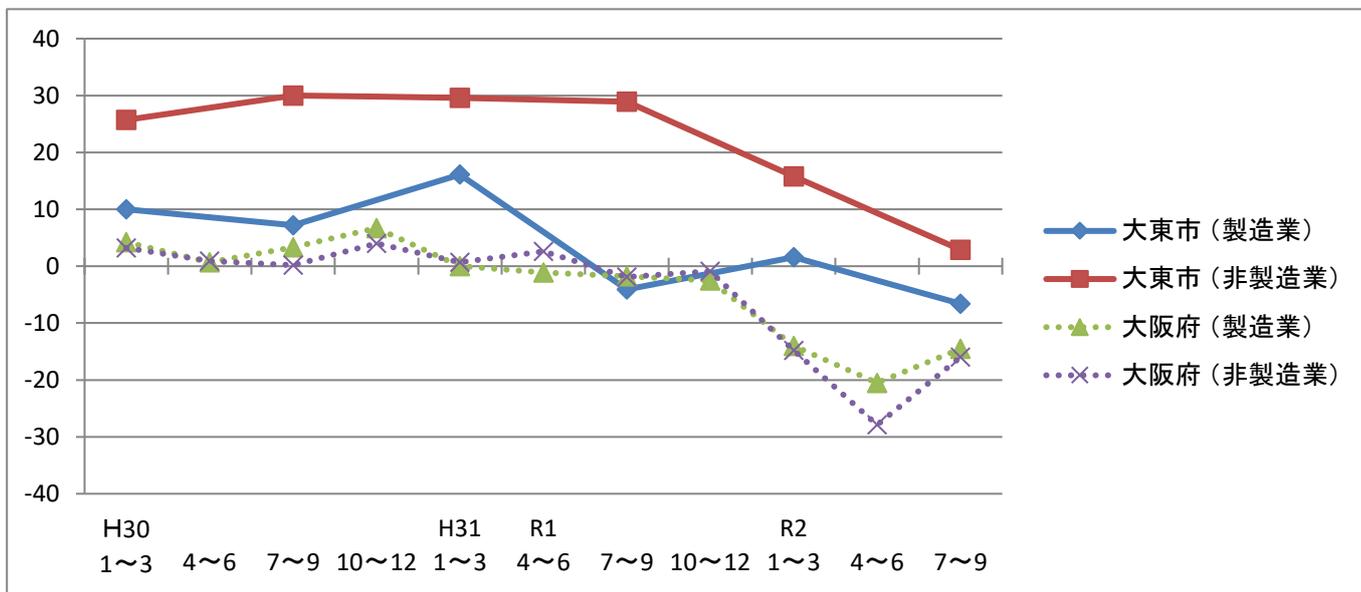
### ○出荷・売上高

出荷・売上高DI(「増加」-「減少」企業割合)⇒ 製造業:-86.9% 非製造業:-65.6%  
 前回調査結果(製造業:-54.4%、非製造業:-52.3%)から、製造業・非製造業ともに下落。但し、国や府などの調査結果では4月～6月の四半期に底をつき、7月～9月では持ち直しの動きがあるが、直近の大東市では特に製造業の落ち込みが厳しい結果となった。直近の大阪府データ(製造業:-45.6%、非製造業:-42.6%)との比較では、製造業では41.3ポイント、非製造業では23.0ポイントそれぞれ下回った。



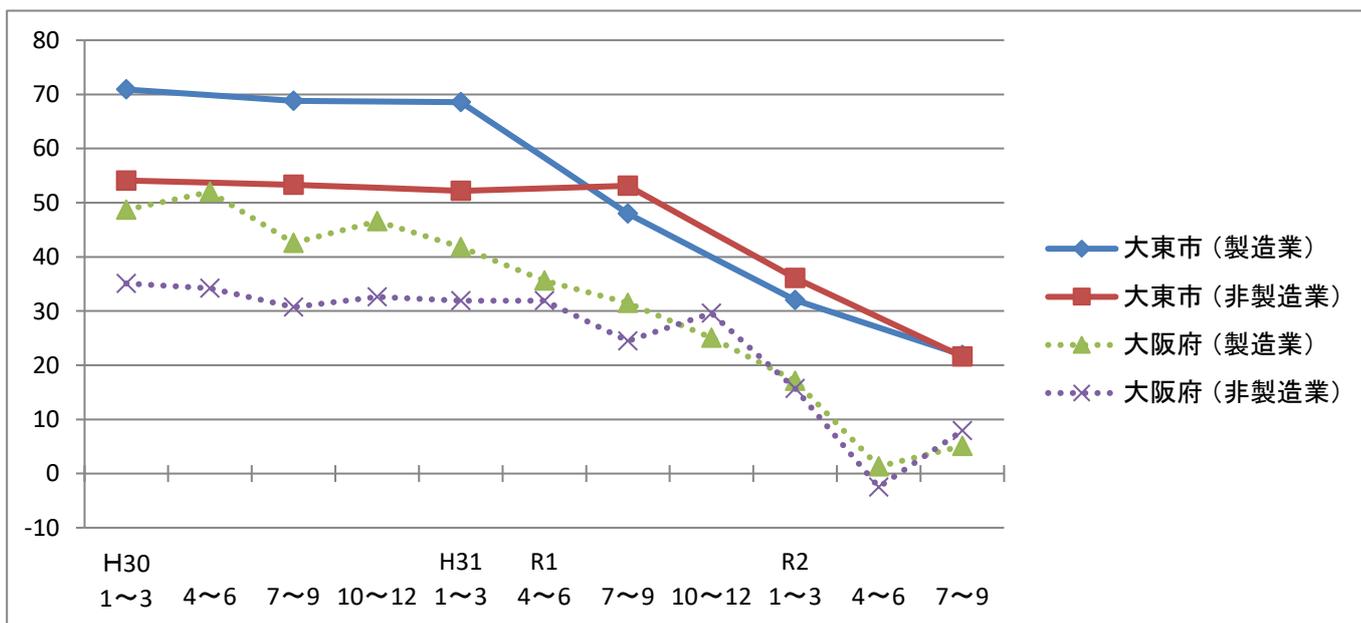
## ○製・商品、サービス等の単価

製・商品、サービス等の単価DI(「値上り」-「値下り」企業割合)⇒ 製造業:-6.6% 非製造業:2.9%  
 前回調査結果(製造業:1.6%、非製造業:15.8%)から、製造業・非製造業ともに下落した。  
 直近の大阪府データ(製造業:-14.5%、非製造業:-16.0%)との比較では、製造業・非製造業ともに上回る結果となったが、今回はそれぞれ大阪府平均値との差が縮小している。市内では、飲食店(17.6%)、建設業(7.1%)、サービス業(6.7%)においてプラス幅が大きく、小売業(-8.3%)では逆にマイナス幅が大きい。



## ○原材料・部品等の仕入価格

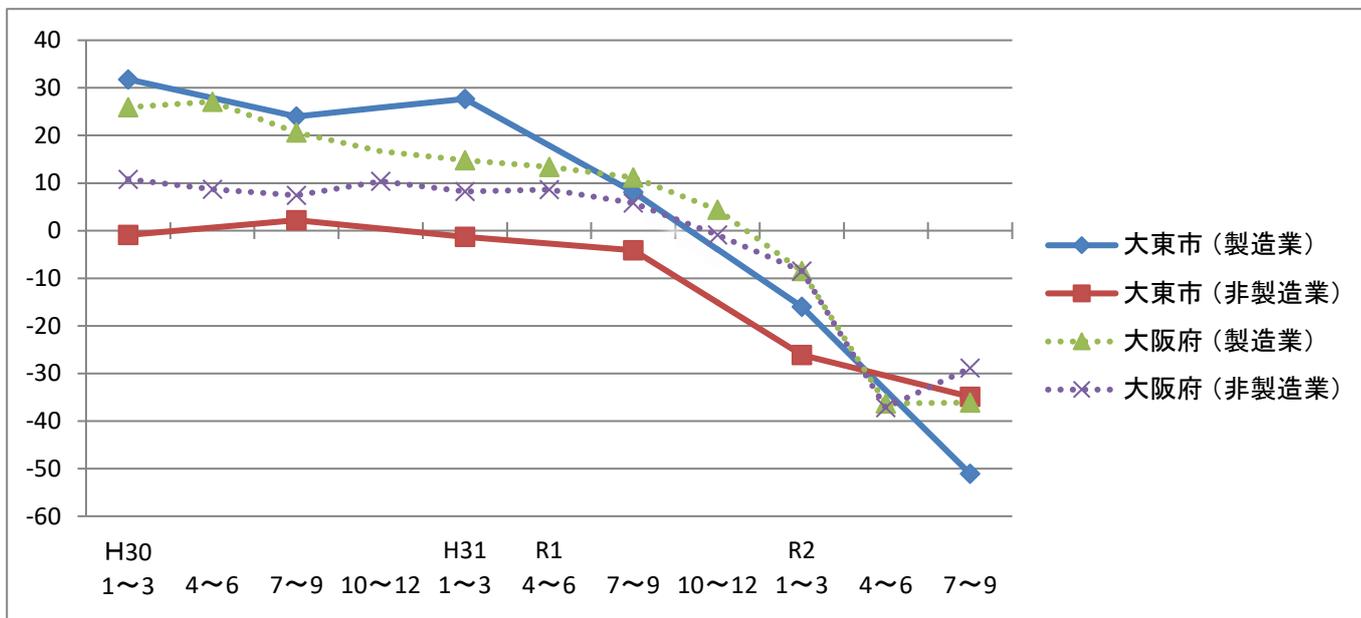
原材料・部品等の仕入価格DI(「値上り」-「値下り」企業割合)⇒ 製造業:21.9% 非製造業:21.6%  
 前回調査結果(製造業:32.0%、非製造業:36.1%)から、製造業・非製造業ともに下落の結果となった。  
 また直近の大阪府データ(製造業:5.1%、非製造業:7.9%)との比較では、製造業は16.8ポイント、非製造業は13.7ポイントのプラスと、引き続き市内企業の多くが仕入価格の値上がりや高止まりを感じている現状が窺える。市内では、飲食店(41.2%)、サービス業(24.4%)での仕入価格の値下がり回答は0件であった。



## ○営業利益

営業利益DI(「黒字」-「赤字」企業割合)⇒ 製造業:-51.1% 非製造業:-34.1%

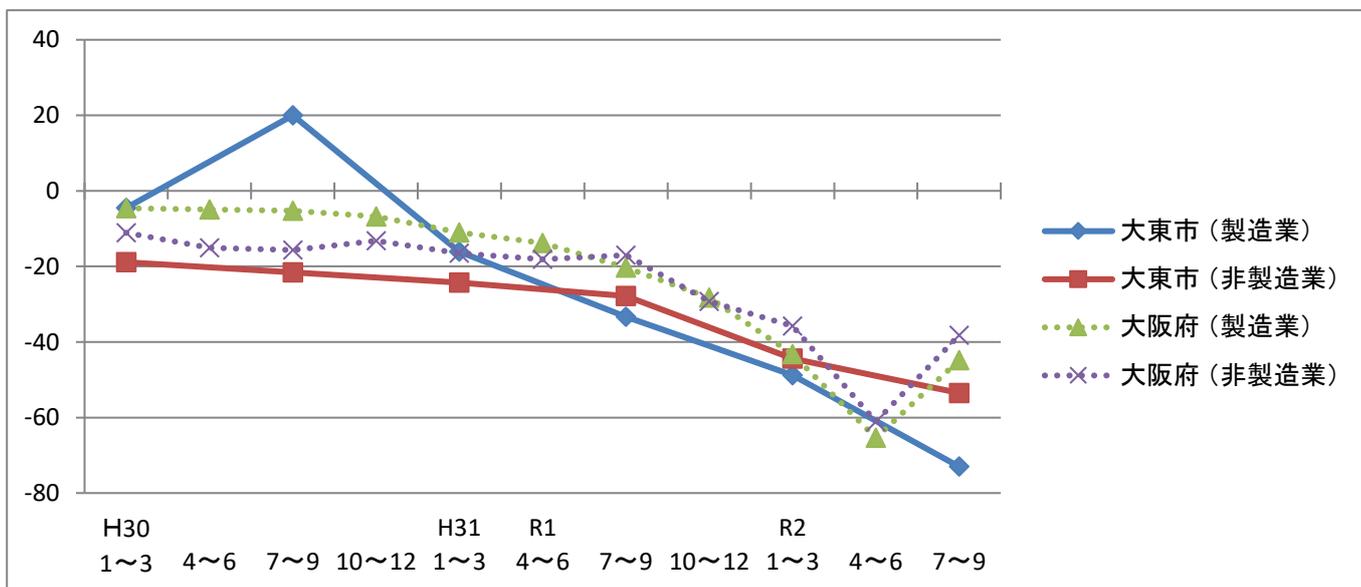
前回調査結果(製造業:-16.0%、非製造業:-26.1%)から、製造業・非製造業ともに下落したが、特に製造業での落ち込みが急であった。直近の大阪府データ(製造業:-36.1%、非製造業:-28.9%)との比較でも、市内製造業・非製造業ともに大阪府の数値を下回った。大東市内では、飲食店(-76.5%)、小売業(-52.1%)、製造業(-51.1%)に「赤字」の回答が多く、「黒字」の回答が上回った業種は無かった。



## ○採算状況

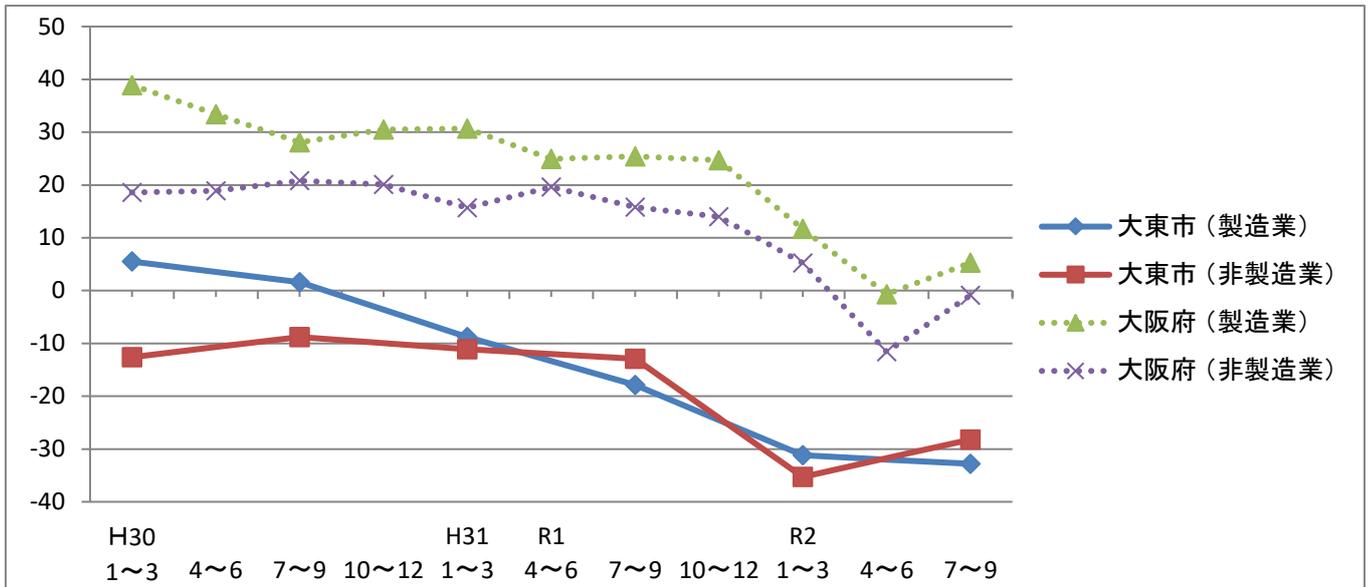
採算状況DI(「良くなった」-「悪くなった」企業割合)⇒ 製造業:-73.0% 非製造業:-53.5%

前回調査結果(製造業:-48.8%、非製造業:-44.4%)から、製造業・非製造業ともに下落。採算状況でも製造業の落ち込みが急であった。直近の大阪府データ(製造業:-44.8%、非製造業:-38.2%)との比較でも製造業は28.2ポイント、非製造業は15.3ポイント下回った。採算状況でも、市内の飲食店(-85.0%)、製造業(-73.0%)、小売業(-58.3%)の厳しさが目立った。



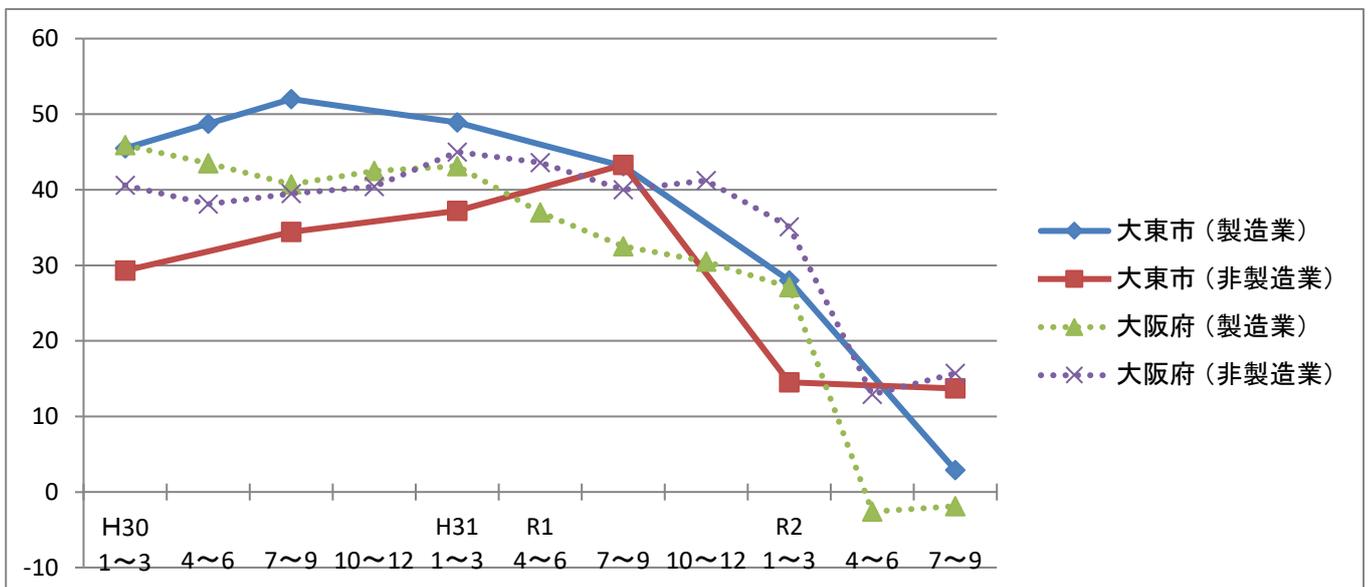
## ○資金繰り

資金繰りDI(「良くなった」-「悪くなった」企業割合)⇒ 製造業:-32.8% 非製造業:-28.2%  
 前回調査結果(製造業:-31.2%、非製造業:-35.3%)から、製造業は僅かに下落、非製造業は低位ながら改善した。直近の大阪府データ(製造業:5.3%、非製造業:-0.9%)との比較では、各々38.1ポイント、27.3ポイント下回っており、特に飲食店(-82.4%)では平均値から大幅に乖離しているだけでなく、「良くなった」との回答は皆無で、引き続き改善余地の大きいことが窺える。従来調査と同様に、大阪府との差が最も顕著に出た指標となり、市内企業の多くが資金繰りの課題に直面している可能性が高いものと推察される。



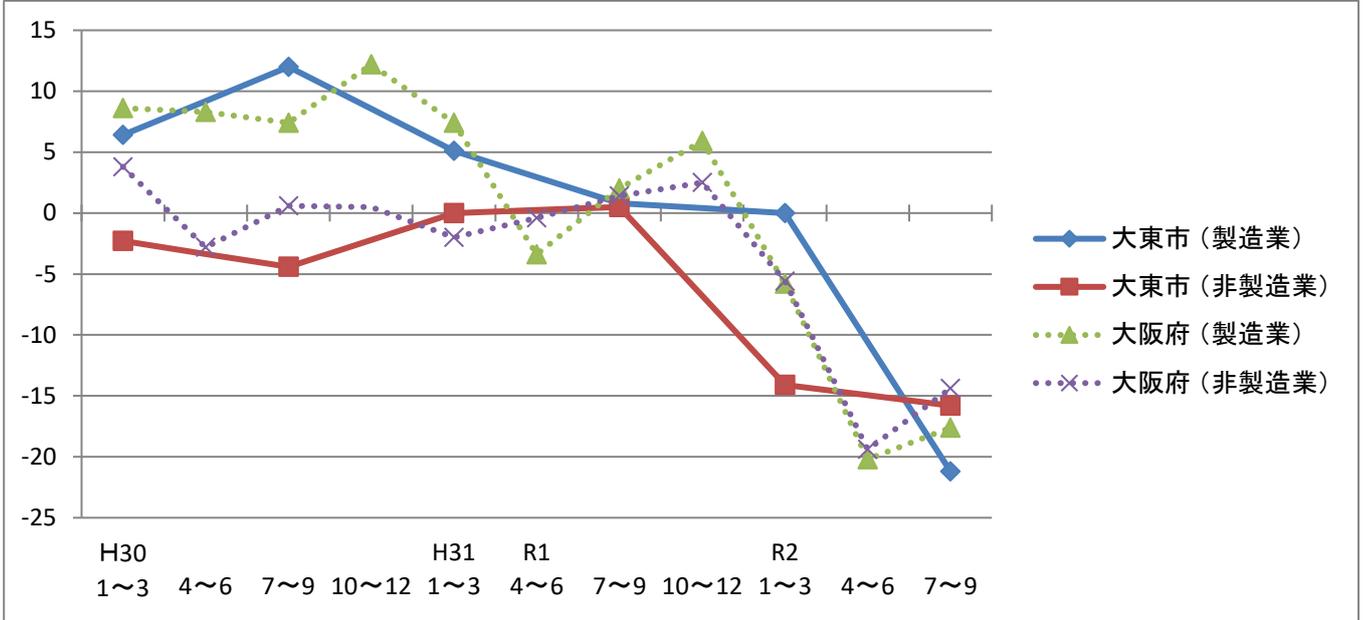
## ○雇用状況(雇用不足感)

雇用状況DI(「不足」-「過剰」企業割合)⇒ 製造業:2.9% 非製造業:13.7%  
 前回調査結果(製造業:28.0%、非製造業:14.5%)から、製造業・非製造業ともに雇用不足感は減少。特に製造業での雇用不足感に解消傾向が強い。直近の大阪府データ(製造業:-1.9%、非製造業:15.7%)との比較では、製造業は4.8ポイント上回り、非製造業では2.0ポイント下回った。大東市内では、建設業(25.0%)の値が高かったが、前回調査からは16.2ポイント下回り、雇用情勢には総じて一服感がみられる。



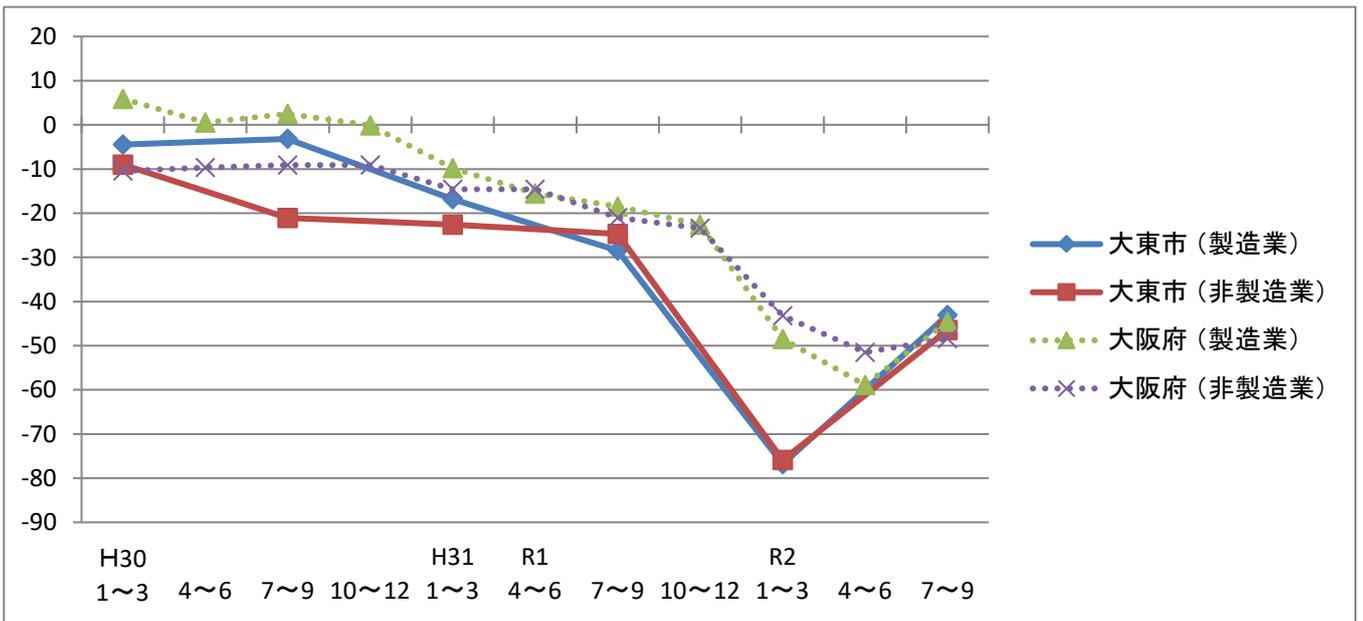
## ○設備投資

設備投資DI(「増加した」「減少した」企業割合)⇒ 製造業:-21.2% 非製造業:-15.8%  
 前回調査結果(製造業:0.8%、非製造業:-14.1%)から、製造業は大幅減少、非製造業は若干減少した。  
 直近の大阪府データ(製造業:-17.6%、非製造業:-14.4%)との比較では、大東市内の製造業は3.6ポイント  
 非製造業では1.4ポイントそれぞれ下回る結果となった。設備投資が増加した業種は無かった。



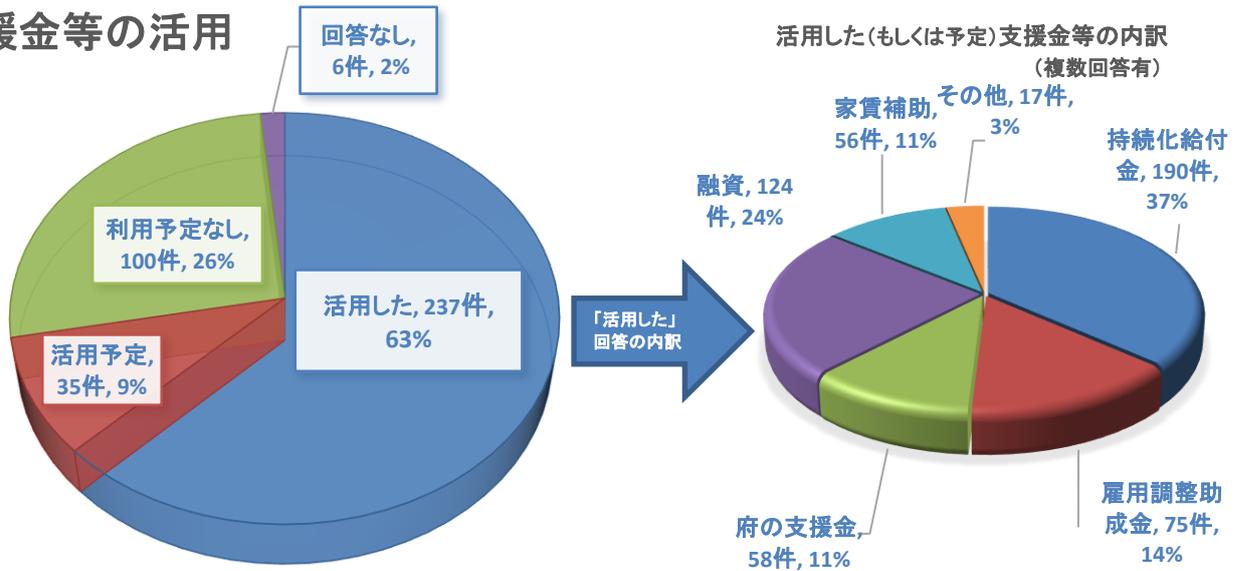
## ○来期の業況見通し

来期の業況見通しDI(「良くなる」「悪くなる」企業割合)⇒ 製造業:-43.1% 非製造業:-46.5%  
 前回調査結果(製造業:-76.8%、非製造業:-75.9%)から、製造業・非製造業ともに大きく改善した。  
 直近の大阪府データ(製造業:-44.6%、非製造業:-48.4%)との比較では、製造業は1.5ポイント、非製造業も1.9ポイントわずかに上回ったものの、依然として全業種で厳しい結果がみられた。



○コロナ禍における支援金等の活用

支援金等の活用



○自由意見(抜粋)

産業分類	従業員数	自由意見
外衣製造業	A	仕事がない為不安。少し出かかっていた感じでも、制服関係なんかは不明です。
表面処理鋼材製造業	C	事業所内で陽性者が発生した場合の指導を求めたい。
アルミニウム・同合金圧延業	B	飲食と異なり製造へのコロナショックは遅れてやってくるので、この夏から冬のダメージに危機感を持っています。
金物類製造業	A	無利子等の融資もありがたいが、返済義務のない持続化給付金のような制度の第2弾があればかなり助かる。
製缶板金業	D	経済優先の施策を打ってほしい。
はん用機械・同部分品製造業	B	大変落ち込んだ営業利益に対し、雇用助成金を活用させて頂き、資金繰りを助けて頂いております。
各種機械・同部分品製造修理業	A	単価値上がりは中間業者廃業のため。
電気機械器具製造業	C	持続化給付金及び家賃補助の支援を受けるための条件、前年同月比で50%以上という条件を40%減以上の条件に緩和してほしい。(ちなみに弊社47%の減)
電気音響機械器具製造業	A	販売会場が借りられない為、販売不能になっている。
建築金物工事業	B	商工会議所が地域の中小企業を守る先頭に立って、色々イベントをして元気な大東市にしてください。
塗装工事業	A	先行きが不透明で先々は考えられませんが、トントンでも頑張ってお金を稼いでいきたいです。
一般電気工事業	B	住宅ローンが重く負担になっている。早く公共工事を出してほしい。
電気配線工事業	A	得意先様の会社が全てコロナ禍で営業不振。なかなか改善が見られずに先々不安である。

給排水・衛生設備工事業	B	経済を回すために消費税を5%に戻せないでしょうか？
一般貸切旅客自動車運送業	D	この先すぐに良くなると思わない。来年度に期待している。
かばん・袋物卸売業	A	卸売業は、小売業(お客様)の厳しさと比例し売上は悪くなるばかりです。
化学製品卸売業	A	資金繰りは融資も受け楽になった。製造業全般的にコロナ不況は長期化しそう。一方、コロナ特需もあり、売上は昨対わずかな減少で済んだ。
呉服・服地小売業	B	若い人材がほしい。いろいろ行事が中止又は延期になることで着物を着る機会が少なくなる。
婦人服小売業	A	取引メーカーさんもコロナ禍で商品企画を大幅に減らしています。商品調達がよりむつかしくなっています。コロナの早期終息を願いつつ、さらなる支援をお願いします。
かばん・袋物小売業	A	キャッシュレスの影響があると思います。小銭入れ、財布の販売が多いので、売上が伸びる気がしません。
パン小売業	A	じわじわと不況を感じる。それは全体的に給与所得が減少しているからだだと思います。ボーナスも減り、さらに悪化することを予想しています
パン小売業	B	支援金は大企業分類の為に対象外。来期の見通しは立っていません。
米穀類小売業	A	支援金は色彩選別機の購入に充てました。米の消費量減少に加え、依然としてスーパーの安売りの影響が大きい。
医薬品小売業	A	採算状況は持続化補助金が出たおかげで今のマイナスを何とかクリアできましたが、今の売上ではまた心配です。
化粧品小売業	A	コロナに負けずに今まで以上来年の決算には良い結果が得られますよう努力したいと思います。
損害保険代理業	A	保険業は影響が出るのが1年後ぐらいです。
税理士事務所	B	コロナ禍による新たな設備投資を行いました。厳しい状況が続くと思われます。
デザイン業	A	新規取引先開拓の為、展示会費用及び販促費の支援をお願いします。
中華料理店	A	当期はコロナ禍の一年となってしまう何をやっても焼け石に水となりました。色々試してはみますがその場しのぎで先の事など何も思いつかないです。民間行政共に考えていかなければ乗り越えられないと思います。
酒場、ビヤホール	A	人の流れが無く、早くコロナが収まってくれるのを待つのみ。
バー、キャバレー、ナイトクラブ	A	お客様が戻らず苦境です。飲食業にはキツイです。
理容業	A	コロナのため人の流れがなくなった。
理容業	A	コロナで客足が減少した。冬になると売上が更に落ちると予想します。
教養・技能教授業	A	特別徴収が増えて困っています。今年はコロナで収入が減って二重に困っています。
あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・柔道整復師の施術所	A	売上があるうちは頑張っていこうと思ってます。頑張ります。

\* 従業員数 A…0～5人 B…6～20人 C…21～50人 D…51～100人 E…101人以上